

現在の景気：県内景気は、緩やかな持ち直し傾向が続いている。非製造業では、新型コロナウイルスの感染が徐々に落ち着く下で、観光や飲食などの対面型サービス業の回復が続いているほか、自動車や百貨店の衣料などの販売も上向いている。製造業では、輸出回復などに支えられた改善基調を概ね維持している。この間、建設需要は、交通インフラ整備や物流施設などの官民プロジェクトの進展や堅調な住宅ニーズなどを背景に底堅く推移しているが、建設コスト上昇の影響を指摘する声も聞かれている。

3 か月程度の見通し：非製造業は、物価上昇に伴い消費マインドがやや慎重な状態が続いているが、行動制限の緩和が維持される下で、対面型サービス業を中心に持ち直しの動きが続くとみられる。この間、製造業では、標準シナリオでは改善基調が維持される見込みだが、物価上昇や金融引き締めなどに伴う海外経済の不安定化リスクを引き続き注視する必要がある。

個人消費：①上向き基調。②1 月の県内百貨店（存続店ベース）の売上は、前年同月比 6.8%増と 2 か月ぶりに前年を上回った（19 年比では 15.8%減）。とくに年初の販売が好調だった。2 月も感染が落ち着く下で、バレンタイン商戦の盛況など堅調な動きが続いた模様。1 月の自動車登録台数は、部品調達難の緩和などから、同 13.0%増と 5 か月連続でプラスとなった（19 年比では 8.0%減）。一般乗用車（前年同月比 1.0%増）、軽乗用車（同 26.5%増）ともに増加した。

住宅建築：①増加基調。②1 月の新設住宅着工戸数は前年同月比 11.7%減少し、2 か月ぶりに前年を下回った。持家（同 13.9%減）、分譲住宅（同 12.3%減）、貸家（同 8.5%減）いずれも減少した。

設備投資：①堅調。②国土交通省の「建設着工統計」（非居住用）によると、1 月の工事床面積（年度累計）は前年度比 18.9%減少し、工事予定額も同 8.5%減少した。千葉経済センターによる県内企業 194 社アンケート調査（1 月実施）では、22 年度の設備投資計画（12 月末時点）は、期初計画比（全産業）では 17.4%減の減額修正となったが、21 年度実績額を 67.0%上回っている。

公共工事：①増加。②1 月の県内公共工事請負額（年度累計）は、前年同月比 11.3%増加した。独立行政法人等（同 126.1%増）、国（同 16.7%増）、県（同 2.4%増）、市町村（同 2.4%増）のすべてで前年を上回った。

輸出：①増加基調。②1 月の成田、千葉、木更津 3 港合計通関輸出額は、前年同月比 5.9%減と 23 か月ぶりに減少した（19 年比では 26.0%増）。千葉港が、鉱物性タール（同 67.8%増）や金属鉱（同 41.6%増）などの増加により、同 3.9%増と 3 か月振りに前年を上回ったが、成田空港（同 6.8%減）が 23 か月振りに、木更津港（同 0.8%減）が 3 か月ぶりに減少した。成田空港では、半導体等製造装置（前年同月比 30.0%減）や IC（同 12.7%減）が減少し、木更津港では、自動車（同 16.2%減）が減少した。

生産活動：①減少。②12 月の県鉱工業生産指数（季調済）は、88.3（前月比 2.4%低下）と 5 か月連続で低下した。食料品工業（同 2.3%上昇）などは上昇したが、鉄鋼業（同 9.7%低下）、化学工業（同 6.8%低下）などが低下した。

観光：①回復。②県内の観光・宿泊施設の入込は、「千葉とく旅キャンペーン」などの需要喚起策効果もあって、持ち直しが続いている。勝浦市では、全国から集めたひな人形を市内各地に飾る「かつうらビッグひな祭り」が 4 年ぶりに開催された。今回は、勝浦市と御宿町のひな祭りイベントを周遊するスタンプラリーも実施され、多くの人出で賑わった（2 月 24 日～3 月 3 日）。

雇用情勢：①改善基調。②1 月の有効求人倍率（季調値）は、前月比 0.01 ポイント改善の 1.02 倍となった。有効求人数（同 1.7%増）の伸びが有効求職者数（同 1.1%増）を上回った。

【トピックス】

- 千葉県や金融機関、経済団体らによる SDGs 推進組織「ちば SDGs 推進ネットワーク」の取り組みが、内閣府の「地方創生 SDGs 金融表彰」を受賞した。「ちば SDGs パートナー登録制度」を生かした企業への普及、啓発などが評価された（2 月 13 日）。
- 成田国際空港会社（NAA）は脱炭素化に向けて、東京ガスと新会社の設立を発表した。NAA の空港設備を新会社が引き継ぎ、老朽化した中央受配電所を 27 年度、中央冷暖房所を 34 年度までに最新鋭施設に更新。また 45 年度末までに滑走路周辺などに計 18 万キロワットの太陽光発電設備を整備する（2 月 20 日）。
- JR 津田沼駅前の「津田沼パルコ」が 46 年近くの歴史に幕を閉じた（2 月 28 日）。2 棟の建物のうち、B 館は新しい商業施設（「Viit（ビート）」）として生まれ変わり、3 月 16 日から順次店舗がオープンすることが決まっている。